

京都大学 生物資源経済研究

No. 12

2006年

An Attempt at Integrated Environmental GovernanceTakashi Takebe (1)

The Conservation of Government Pasture Land
and the Economic Efficiency of Pasture Law in TurkeyAtsuyuki Asami (17)

豪州における穀物からのバイオ燃料生産の動向とその意義
—再生可能な石油代替燃料の生産による資源循環型農業への模索—
.....加賀爪 優 (31)

農地改革期小作地引上の地域・階層・事由分析.....野田 公夫 (51)

キリマンジャロにおけるトウモロコシ・豆の生産・販売の特質
—コーヒー危機にともなう商品作物の多様化と家計安全保障—
.....辻村 英之 (73)

京都大学大学院農学研究科
生物資源経済学専攻

『生物資源経済研究』規定

1. 投稿資格・著作権・編集要領

- 1) 単著論文の投稿資格者は、生物資源経済学専攻（以下、専攻と略記）教員、本専攻在籍中ないし在籍後5年以内の内地
 研究員・外国人招聘学者・外国人共同研究者、および編集委員会で特に認めたものとする。なお、別途定める『生物資源
 経済研究』内規に基づき、本専攻の院生（およびこれと同等以上と認められる者）も、専攻会議の了承のもとに投稿
 できる。
- 2) 共著論文の第一執筆者は本専攻教員に限定するものとする。
- 3) 著作権：本誌に掲載された論文・抄録の著作権は、本専攻に属するものとする。なお執筆者自身が自らの論文を利用す
 ることは差し支えないものとする。
- 4) 原稿の採否の決定：原稿の採否は、査読にもとづき編集委員会が行うこととする。採用決定日をもって受理日とする。
- 5) 発行回数と別刷り：年1回発行を原則とする。別刷りは各原稿当たり20部まで無料で著者に贈呈し、それ以上は著者の
 実費負担とする。
- 6) 著者校正：著者校正は原則として2回行う。誤植以外の加筆・修正はできないこととする。

2. 執筆要領

- 1) 原稿種別は論文と研究ノートの2種とし、投稿者は投稿時に種別を明記する。
- 2) 原稿枚数は、図・表を含め、和文の場合は横書き400字詰め原稿用紙換算で50枚以内、英文の場合は、A4用紙にダブル・
 スペース（28行、1行10～15単語）で30枚以内を目安とする。和文の場合は英文抄録（300単語以内）と英文題名を、英
 文の場合は和文抄録（800字以内）と和文題名を投稿時に添付する。原稿は完成原稿とそのハード・コピー2部を、デー
 タ・ファイルを添付の上で、編集委員長ないし副委員長に提出するものとする。
- 3) 特殊な専門用語・学術用語のほかは、原則として新仮名遣い・常用漢字を使用する。
- 4) 論文の節項表示は、1. (1)、1)、aのようにする。
- 5) 単位は%、kg、haなどの略号を用い、数字は5億6,728万などと表す。
- 6) 図表は、図1、表1 (Fig1. Table 1) のように示す。また図表の挿入位置については、完成原稿の右余白に朱書きで明示
 する。
- 7) 本文注記は各頁ごとではなく本文末尾に一括して掲載する。また引用文献は注記を原則として下記の要領によるものとす
 るが、各分野学会誌の様式に準じた表記も認める。
 - 1) 和文の場合
 - a. 著者名『書名』（シリーズ名）、出版社、出版年（奥付けによる）、ページ。
 - b. 執筆者名「論文名」、編著者名『書名』（シリーズ名）、出版社、出版年、ページ。
 - c. 執筆者名「論文名」、『雑誌名』巻号（年月）、ページ。
 - 2) 欧文の場合
 - a. 名頭文字、姓、書名（出版他：出版社、出版年）、p.（または pp.）
 - b. 名頭文字、姓、「論文名」、雑誌名、巻号（月、年）、p.（または pp.）

付 記

- (1) 本規定の改正は専攻会議の承認を得なければならない。
- (2) 本規定は平成7年9月14日より実施する。
- (3) 本改正は平成13年7月31日より実施する。
- (4) 本改正は平成17年2月1日より実施する。

執筆者紹介 (掲載順)

武部 隆 京都大学農学研究科 (食料・環境政策学分野)

浅見 淳之 京都大学農学研究科 (国際農村発展論分野)

加賀爪 優 京都大学農学研究科 (地域環境経済学分野)

野田 公夫 京都大学農学研究科 (比較農史学分野)

辻村 英之 京都大学農学研究科 (農業組織経営学分野)

『生物資源経済研究』第12号の編集を終えて

本号は例年よりやや薄めとなった。投稿本数が5本と少なめだったのは、専攻教員の研究進展状況とのタイミングとともに、定期刊行を確実なものにするために締切期日を若干早めに設定し、かつ厳しくしたことにもよるかもしれない。しかし、期日どおり発刊することもまた、「知」に対する重要な責任の取り方であろうと思う。これからも定期刊行を大事にしていきたい。

内容的にみると、世界レベルで環境および資源管理問題を扱ったものが3本を占め、現在の生物資源経済研究領域の問題関心の所在がクリアに示されている。今後もこの傾向は続くのであろう。また、途上国の農業問題を扱ったものが1本あるが、これも含め論者の視野は広く強く世界に向けられていることも確認できよう。研究対象が圧倒的に「世界」に設定される、これもまた現在の研究状況の大きな特質であるといつてよい。ただ、できれば現代日本農業・農村問題に真正面から切り込んだ論考がほしいところではあった。

それにしても、グローバル経済化が急進展する中で、さまざまな形をとって現象する農業・食料・環境問題を、世界—国家—地域／中枢—半周辺—周辺／過去—現在—未来という各々のステージにおいてどのように扱い、いかなる「知」として構成していけばよいのか…日々対応を迫られるいわば目の前の課題とは別に、少々距離をおいて「学」自体を見つめなおす「余裕」がほしいものである。

平成19年2月14日

編集委員長 野田 公夫

『生物資源経済研究』第12号編集委員 (五十音順)

浅見淳之 香川文庸 川村 誠 末原達郎

武部 隆 沈 金虎 辻村英之 (副委員長) 野田公夫 (委員長)

生物資源経済研究 第12号

2007年3月15日 印刷

2007年3月25日 発行

編集 京都大学大学院生物資源経済学専攻
生物資源経済研究 編集委員会

電話 075-753-6201

発行 京都大学大学院生物資源経済学専攻
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

印刷 創文堂印刷株式会社

平成 年 月 日

御中

京都大学大学院農学研究科
生物資源経済学専攻

刊行物資料の送付について

このたび下記の『生物資源経済研究』を専攻紀要として刊行いたしました。御高覧いただきたく御送付申し上げます。

お手数ながら下添の受領書を御送付下さるようお願い申し上げます。

なお、今後新資料の御刊行の節は御惠贈賜りたくお願い申し上げます。

記

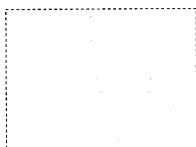
生物資源経済研究 第12号

1部

6068502

京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科
生物資源経済学専攻司書室 行



受 領 書

生物資源経済研究 第12号

1部

上記刊行物受領いたしました。

平成 年 月 日

住 所

機関名

氏 名



The Natural Resource Economics Review

No. 12

2006

An Attempt at Integrated Environmental Governance
.....Takashi TAKEBE (1)

The Conservation of Government Pasture Land
and the Economic Efficiency of Pasture Law in Turkey
.....Atsuyuki ASAMI (17)

Biofuel Production in Australia and Its Implications
—Towards Resource Recycled Farming through
Renewable Petro-Substitute Fuels—Masaru KAGATSUME (31)

Study of Landowner's Reclamation in the Agricultural Land Reform:
area, stratum, and reasonKimio NODA (51)

Characteristics of Maize and Bean Production and Sales in Kilimanjaro:
Commercial Crop Diversification Caused by the Coffee Crisis and
Security of Farm Household EconomyHideyuki TSUJIMURA (73)